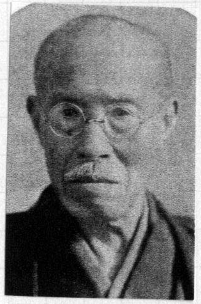
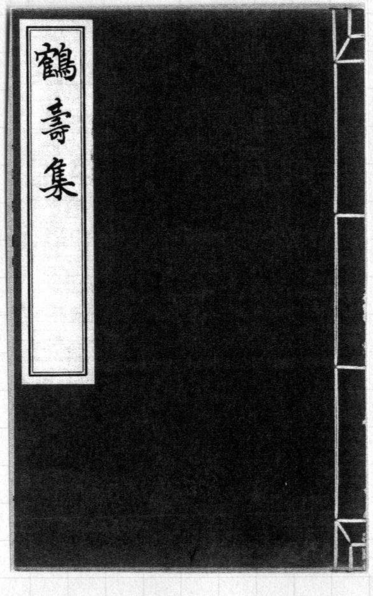
平井魯堂（ひらゐろだう）漢學者。安政五年二月一日江戸本所生れ、昭和二十年十一月二十一日歿（一八五八―一九四五）。諱參、字希曾・守約、幼名國治郎、三郎次郎、通稱三郎。別號亞洲漁史、千紫萬紅樓主人、武城、魯堂逸士。中村敬宇、信夫恕軒に師事。『穎才新誌』、『海外新報』等の編輯に從事し、明治十二年池上教院教師。その後下谷に弘道義塾（のち英華書院と改稱）を開き、また國語傳習所、跡見女學校、東洋英和學校等に教鞭を執り、二十九年には明治大學教授となる。藝文社名譽社員。最も文章に妙を得、經史に通曉。

著書に、評選『春風一夢』（千紫萬紅樓主人名、明治十二年十月青柳孝弘出版）、『戰國策』全二冊（內題「戰國策講義」、上卷・明治二十六年五月十四日、下卷・六月二十日博文館「支那文學叢書」）等。『迴瀾集特輯編（平井魯堂先生八十壽序）』（昭和十二年六月二十五日加藤梅四郎編刊）、『鶴壽集』（昭和十二年七月十五日安藤榮之助編刊。八十壽祝賀詞集）がある。